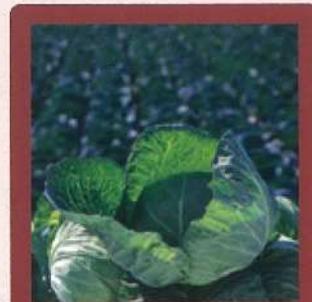
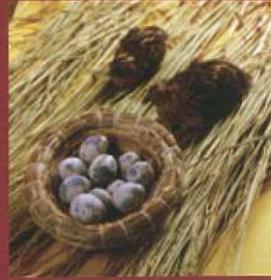
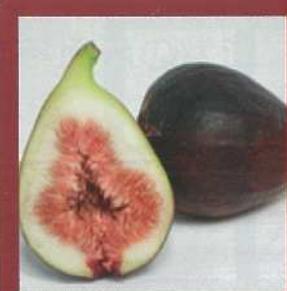
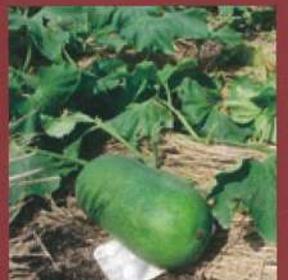
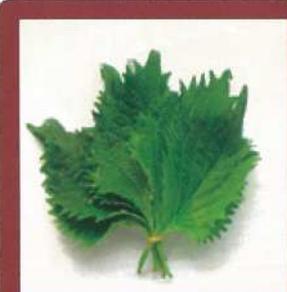


2020

よくわかる



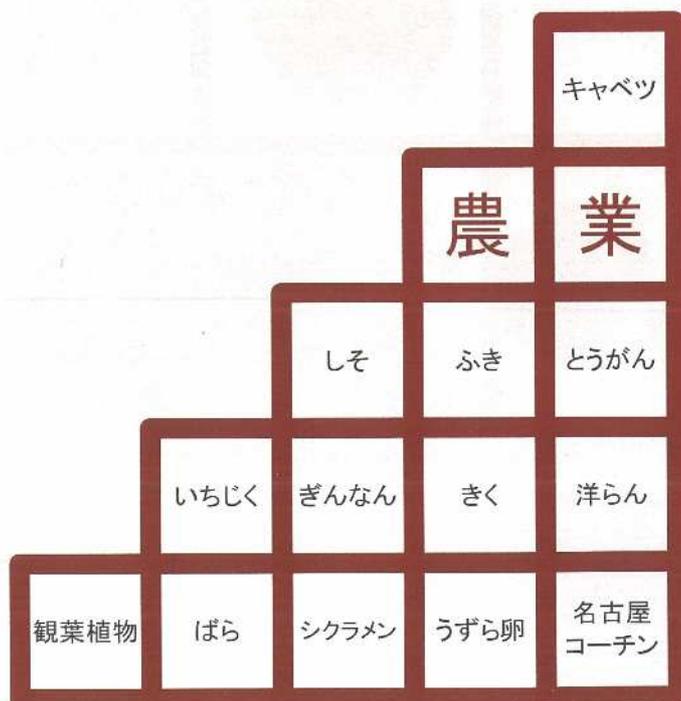
農業



目 次

1	愛知県農業の概要	1
2	県内各地域の農業	4
3	米・小麦・大豆	6
4	野菜	7
5	果樹・茶	9
6	花き	11
7	畜産	13
8	農業・農村の多面的機能	15
9	愛知の農業用水	16
10	食料自給率	18
11	参考資料（愛知県農業の主要指標 ・主要農産物の生産状況・用語の解説）	20

＜表紙の写真の品目名＞

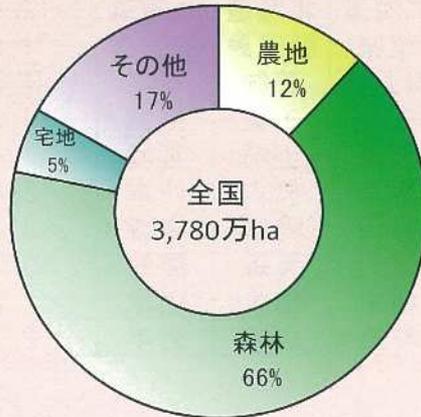
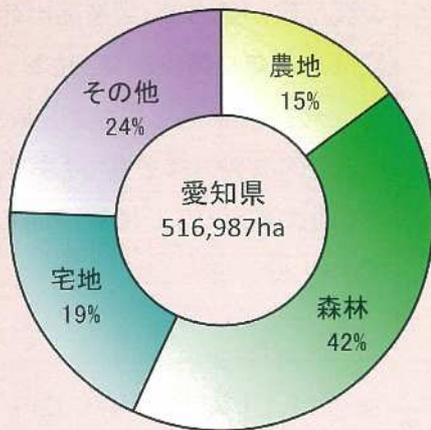


※本文中の構成比は、小数第1位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはなりません

1 愛知県農業の概要

● 土地利用の状況

地目別面積の状況

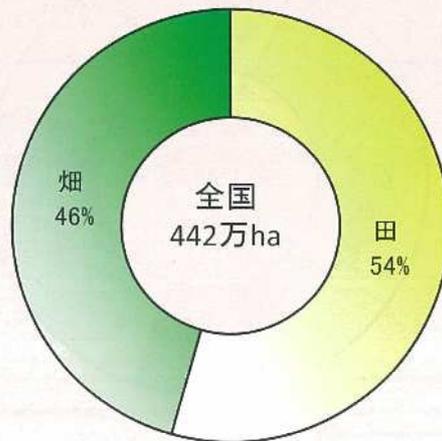
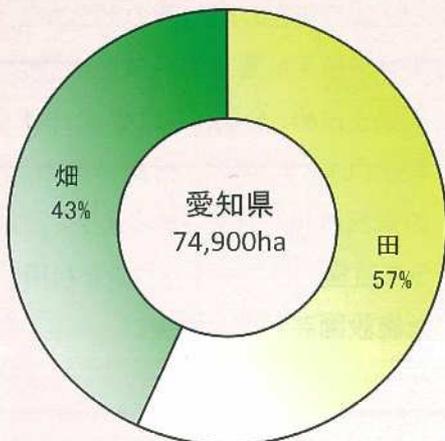


愛知県の面積は516,987haで、全国で27番目の広さです。

濃尾平野に代表される平坦な土地が広がり、総面積に占める農地の割合は全国を上回っていますが、753万人(2017年)という全国第4位の人口を有しているため、宅地の割合が農地の割合を上回っています。

国土交通省調べなどより
(データは2017年)

耕地面積の状況



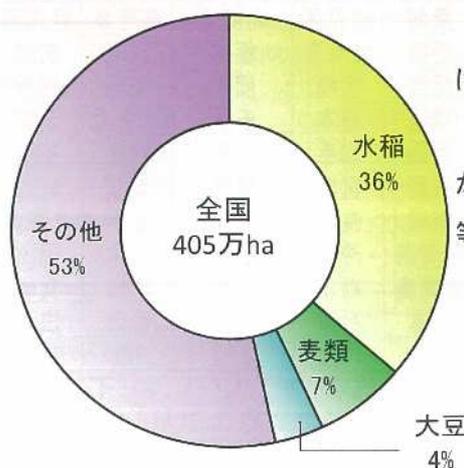
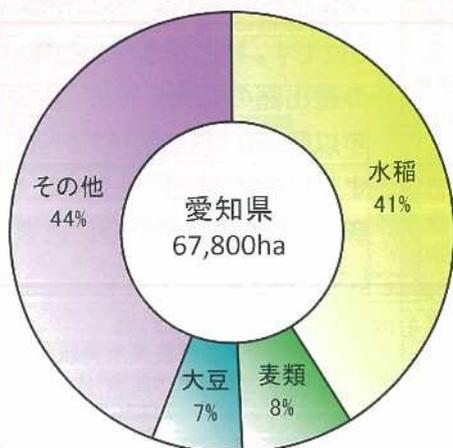
愛知県の耕地面積は74,900haで、全国で16番目の広さです。

田畑別では田42,500ha、畑32,400haで、田と畑の割合は全国とほぼ同じです。

耕地面積は、農地転用による宅地化等によって、年々減少しています。

「作物統計」(農林水産省)より
(データは2018年)

作付(栽培)延べ面積の状況



愛知県の農作物作付(栽培)延べ面積は67,800haで、全国で17番目の広さです。

全国の状況と比較すると、水稲の割合が高い一方で、その他(飼肥料作物、野菜等)の占める割合が低くなっています。

「作物統計」(農林水産省)より
(データは2018年)

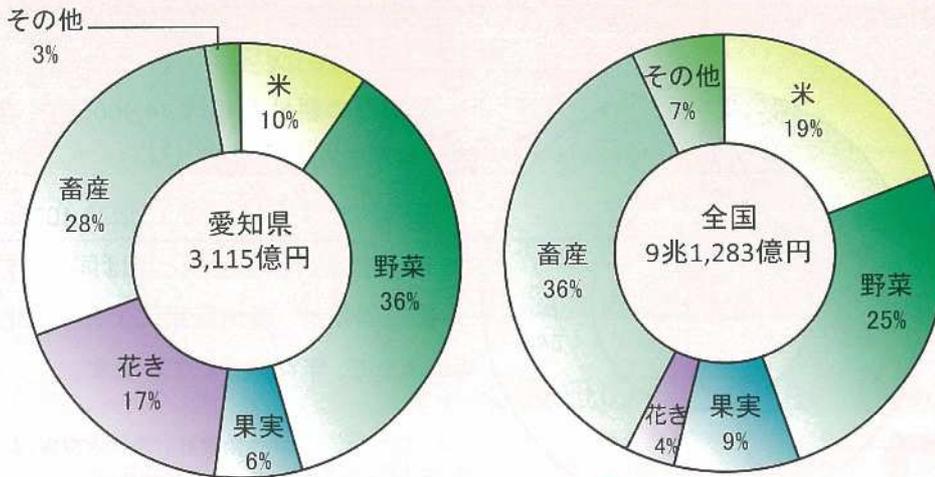
● 農業産出額

農業産出額の上位都道府県

順位	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	農業産出額 (億円)
1	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	12,593
2	茨城	茨城	茨城	茨城	鹿児島	鹿児島	4,863
3	千葉	鹿児島	鹿児島	鹿児島	茨城	茨城	4,508
4	鹿児島	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	4,259
5	熊本	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	3,429
6	宮崎	熊本	熊本	熊本	熊本	熊本	3,406
7	愛知	愛知	青森	青森	愛知	青森	3,222
8	青森	青森	愛知	愛知	青森	愛知	3,115
9	栃木	栃木	栃木	栃木	栃木	栃木	2,871
10	新潟	新潟	群馬	群馬	岩手	岩手	2,727

愛知県は、自動車や機械などの製造業が盛んで、製造品出荷額は1977年以降全国第1位です。一方、農業産出額も全国第8位と全国有数の農業県でもあり、農業と工業がバランスよく発展してきました。

農業産出額の作目別構成比



愛知県は、全国の状況と比較すると野菜や花きの産出額の割合が高く、果実を加えた園芸部門は産出額の60%を占め、全国より22ポイント高くなっています。特に、渥美半島の菊の電照栽培に代表されるように、ガラス温室やビニールハウスを利用した施設園芸が盛んです。

作目別産出額の上位都道府県

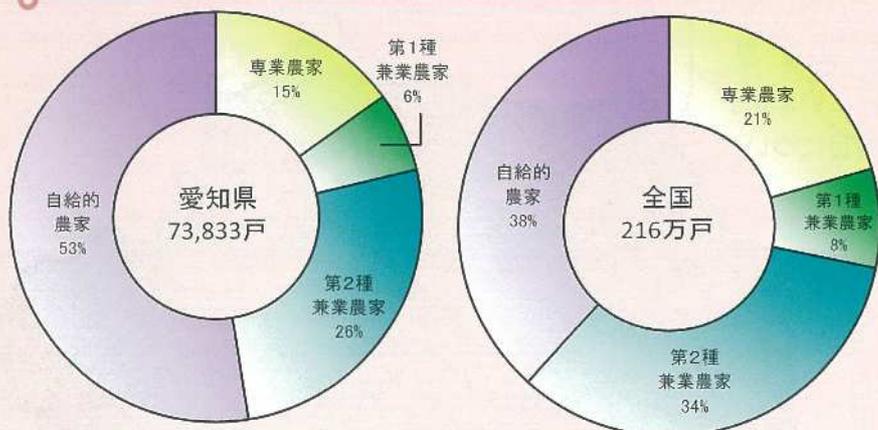
順位	米	麦類	野菜	果実	花き	肉用牛	乳用牛	豚	鶏	鶏卵
1	新潟	北海道	北海道	青森	愛知	鹿児島	北海道	鹿児島	鹿児島	茨城
2	北海道	栃木	茨城	和歌山	千葉	北海道	栃木	宮崎	宮崎	千葉
3	秋田	福岡	千葉	長野	福岡	宮崎	熊本	千葉	岩手	鹿児島
4	茨城	佐賀	熊本	山形	埼玉	熊本	千葉	北海道	茨城	岡山
5	山形	群馬	愛知	山梨	静岡	岩手	岩手	群馬	千葉	広島
6	宮城	埼玉	群馬	愛媛	長野	宮城	群馬	茨城	青森	愛知
7	福島	熊本	長野	熊本	茨城	長崎	愛知	岩手	北海道	青森
8	千葉	愛知	青森	静岡	北海道	沖縄	茨城	栃木	岡山	栃木
9	栃木	岡山	埼玉	福島	鹿児島	栃木	宮城	愛知	兵庫	北海道
10	岩手	茨城	栃木	岡山	熊本	兵庫	岡山	青森	広島	三重
愛知県	21位	8位	5位	13位	1位	19位	7位	9位	11位	6位

作目別の農業産出額では、花きが全国第1位、野菜が第5位です。特に花きは、全国の産出額の16%を占め、1962年以降、第1位を続けています。その他、麦類、乳用牛、豚、鶏卵も全国の上位に位置しています。

「生産農業所得統計」
(農林水産省)より
(データは2018年)

● 農家

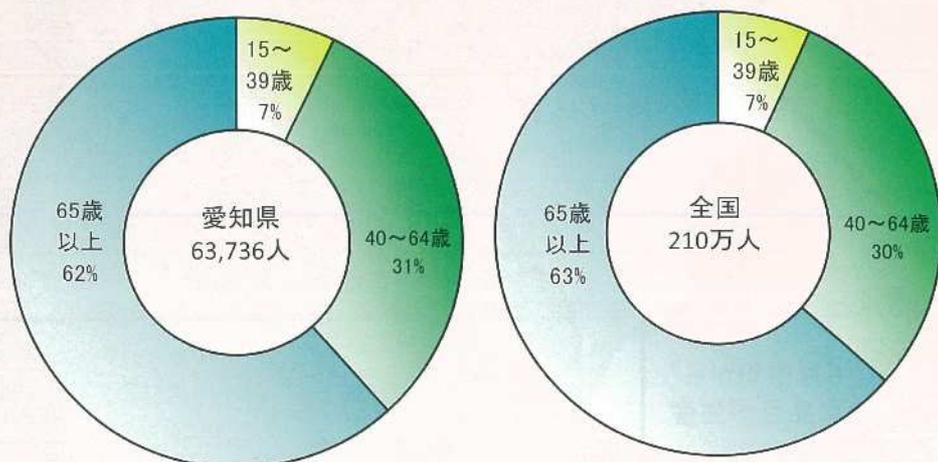
専業別農家・自給的農家の割合



愛知県の総農家数は 73,833戸で、全国第6位です。

また、愛知県では、全国に比べて農産物をほとんど販売しない自給的農家の割合が多くなっています。

農業就業人口の年齢別割合



愛知県の農業就業人口は、全国と同様に半数以上が65歳以上で占められており、高齢化が進んでいます。

「2015年農林業センサス」
(農林水産省)などより

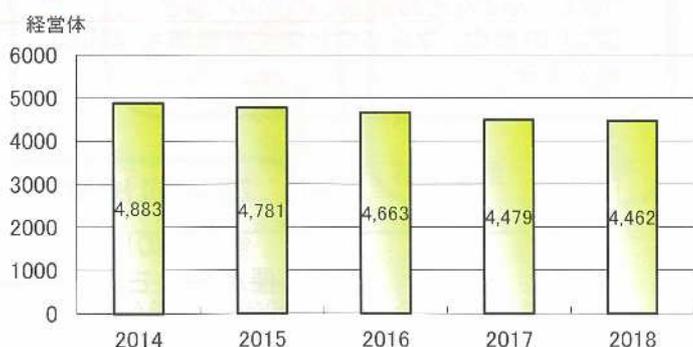
● 農業の担い手

愛知県農業水産局調べ

新規就農者数(44歳以下)の推移



認定農業者数の推移



愛知県の2018年度の新規就農者数(44歳以下)は、237人です。なお、最近5か年度の平均では240人となっています。また、農業経営基盤強化促進法に基づき、地域の農業の担い手として市町村から認定された認定農業者は、2018年度で4,462経営体となっています。

2 県内各地域の農業

愛知県では、海拔0m地帯から700mの中山間地域において、多様な自然条件や名古屋市など大消費地が近いという地理的条件を生かし、それぞれの地域で特色ある農業が営まれています。

県内各地域では、米・小麦・大豆を始め、野菜、果樹、花き、畜産物の生産が盛んに行われています。

右の地図に示した愛知県を代表する品目について、6ページ以降に詳しく紹介します。

名古屋・尾張地域

木曾川によってもたらされた肥沃な土壌を生かし、古くから野菜の栽培が盛んです。

市街化が進んでいますが、都市近郊の産地としての特性を生かし、野菜や果樹、花きで多種多様な品目が生産されています。

また、特産のぎんなん、名古屋コーチンが有名です。

海部地域

木曾川のデルタ地帯に位置し、豊かな水と肥沃な土壌に恵まれた平坦な地域です。

この地域は、米の出荷が県内で最も早く、8月中旬から始まります。いちごやトマト、鉢花など、様々な品目が生産されています。

知多地域

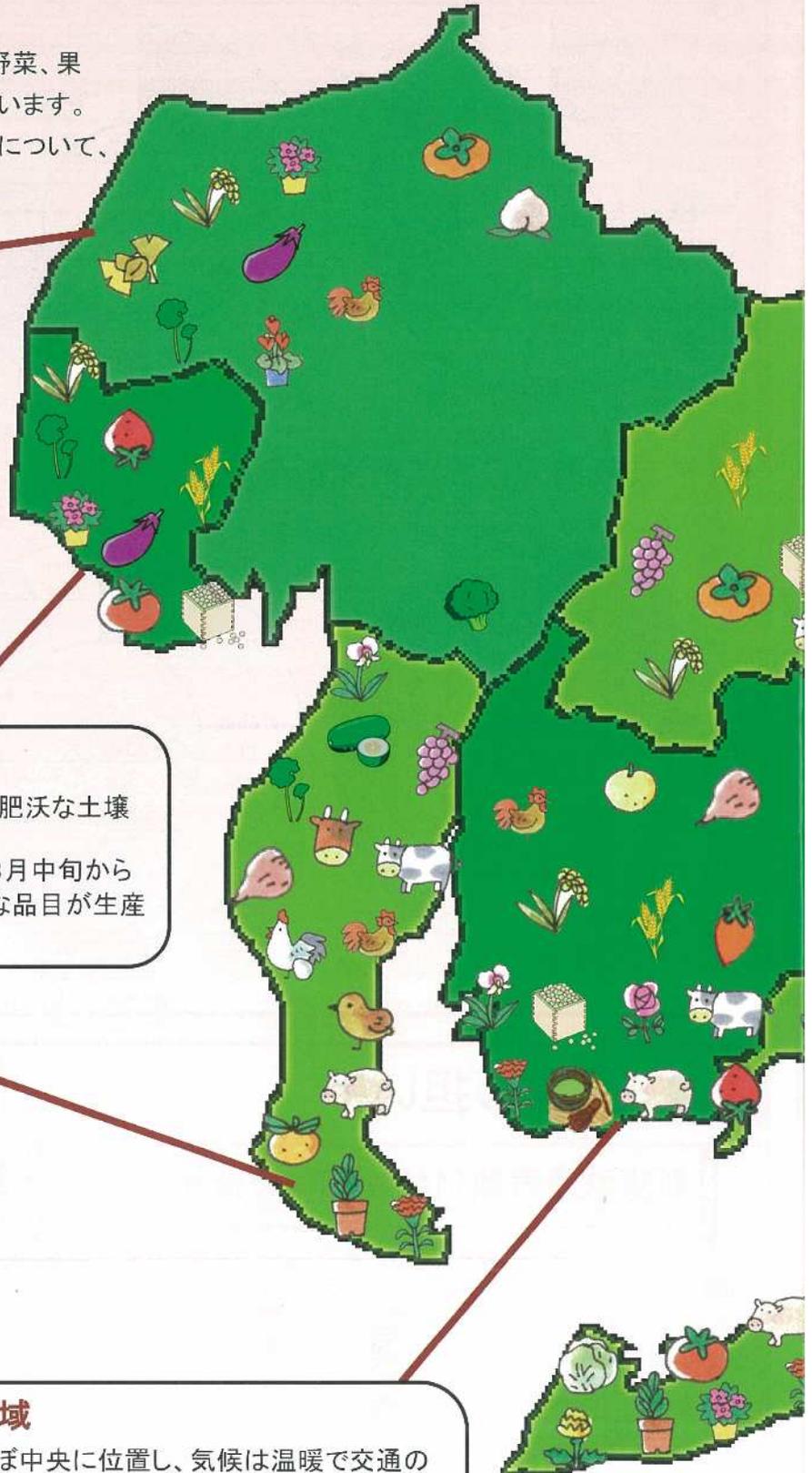
1961年に愛知用水が通水し、農業が飛躍的に発展しました。現在では、乳用牛、肉用牛や鶏などの畜産が大変盛んです。

また、ふきなどの野菜、みかん・ぶどうなどの果樹、洋らんなどの花き栽培も盛んです。

西三河地域

愛知県のほぼ中央に位置し、気候は温暖で交通の便が良く、古くから各種の産業が発展してきました。

農業は、矢作川を水源とする明治用水などの水利に恵まれ、米や小麦、大豆、てん茶などの栽培が盛んですが、施設園芸も発展し、いちじくや洋らん、カーネーションなどが有名です。



豊田加茂地域

南西部の平坦地域と北東部の中山間地域からなっています。

自動車産業で有名な地域ですが、農業も、米や小麦、大豆に加え、なしなどの果樹、てん茶、鶏などの畜産が盛んです。

新城設楽地域

面積の88%を森林が占める中山間地域です。

農地面積は4%と少ないですが、鶏や肉用牛などの畜産が盛んです。また、夏期の冷涼な気候を生かして生産されるシクラメンも有名です。

米・小麦・大豆

米



小麦



大豆



果樹・茶

みかん



ぶどう



いちじく



なし



かき



筆柿



もも



ぎんなん



てん茶



せん茶



野菜

キャベツ



トマト



いちご



しそ



なす



ブロッコリー



ふき



とうがん



畜産

鶏



豚



乳用牛



肉用牛



うずら卵



名古屋コーチン



花き

きく



洋らん



観葉植物



ばら



カーネーション



シクラメン



花き苗類



東三河地域

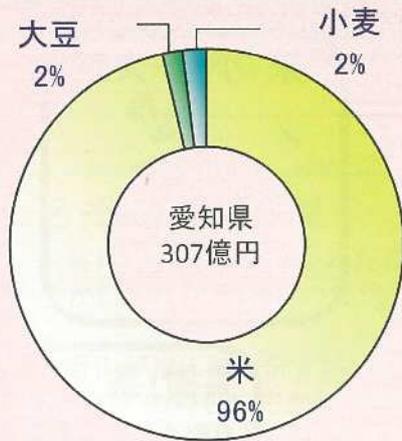
温暖な気候と豊川用水の恩恵に加え、交通網の整備等により、全国屈指の農業地域を形成しています。キャベツ、トマト、しそ、きく、ばら、シクラメン、うずら卵などの全国的にも有名な品目が生産されています。特に、ビニールハウスやガラス温室による野菜や花きの施設栽培が盛んです。

3 米・小麦・大豆

愛知県では、粒が大きく良食味の「あいちのかおり」や、おいしい米の代表である「コシヒカリ」、中山間地で主に栽培される「ミネアサヒ」など特徴ある米が栽培されています。

米については、需要に応じた生産が行われており、これに対応するため、西三河地域を中心に、米・小麦・大豆を周期的に栽培する輪作が定着しています。

米・小麦・大豆の産出額構成比



米・小麦・大豆の作付面積



米

- ①産出額 296億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 21位(1.7%)
- ③作付面積 27,600ha
- ④主な生産地
豊田市 西尾市 安城市
豊橋市 一宮市 愛西市

本県の米は、海拔0メートル地帯から700メートルの山間地域まで、それぞれの自然条件に適した品種が栽培されています。

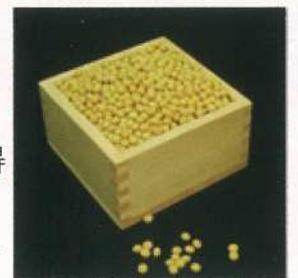
また、平坦地では、一戸あたりの栽培面積が大きいことから、作期の異なる品種を組み合わせたり、直接種もみをまく直播栽培を導入したりして、作業分散や省力化が図られています。



大豆

- ①産出額 5億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 17位(1.6%)
- ③作付面積 4,440ha
- ④主な生産地
西尾市 安城市 岡崎市
豊田市 弥富市 飛島村

本県の大豆は、麦の後作として西三河地域を中心に水田で、大規模省力的に栽培されています。栽培品種の「フクユタカ」は、タンパク質含量が高く、豆腐などの原料として評価を得ています。今後は収量安定に向け、「フクユタカ」を改良した品種「フクユタカA1号」の導入を進めていきます。



小麦

- ①産出額 6億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 5位(2.0%)
- ③作付面積 5,390ha
- ④主な生産地
西尾市 安城市 豊田市
岡崎市 弥富市 飛島村

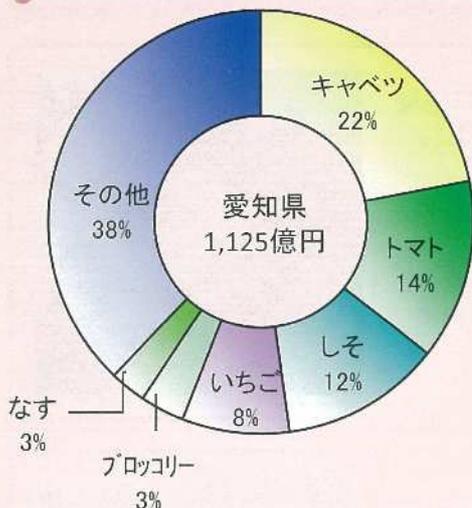
本県的小麦は、水稲の転作として西三河地域を中心に水田で、大規模省力的に栽培されています。作付面積の約9割を占める「きぬあかり」は日本麺用の品種で、うどん、きしめん等に使用され、高い評価を得ています。また、近年、パン・中華麺用の品種「ゆめあかり」の生産も始まりました。



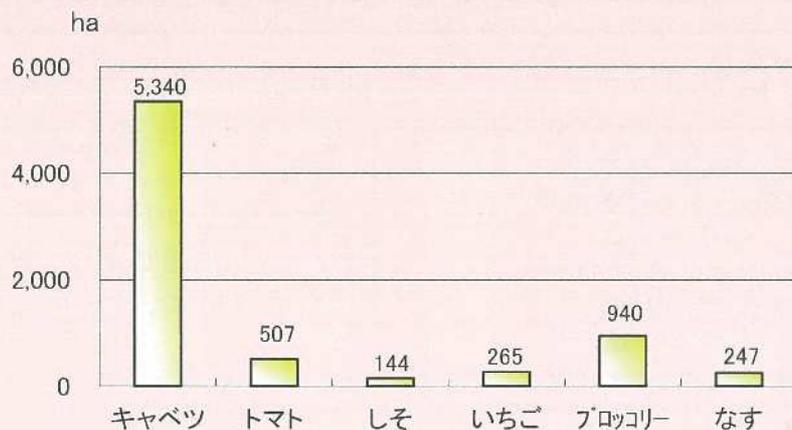
4 野菜

愛知県は、温暖な気候と大消費地が近いという立地条件に恵まれて、秋冬野菜を中心とした、全国屈指の野菜産地となっています。特に、キャベツ、しそ、ふきは、全国一の産出額を誇り、とうがん、トマト、ブロッコリーなども全国有数の産地となっています。また、愛知県では、多くの野菜がガラス温室やビニールハウスなどの施設で栽培されています。

野菜の品目別産出額構成比



野菜の品目別作付面積



キャベツ

- ①産出額 246億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 1位(23.7%)
- ③作付面積 5,340ha
- ④主な生産地 田原市 豊橋市

愛知県のキャベツ生産の歴史は、全国で最も古く、明治中期に名古屋市近郊で始まりました。その後、豊川用水の通水を契機として、東三河地域でも生産されるようになり、現在では、この地域は全国有数の大産地となっています。



トマト (加エ・ミニトマト含む)

- ①産出額 155億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 3位(6.5%)
- ③作付面積 507ha
- ④主な生産地 田原市 豊橋市 豊川市

愛知県のトマト生産は、後にカゴメを創設した蟹江一太郎氏が1899年に栽培を開始したと言われています。

大玉、ミディ、ミニ、カラー等様々な種類が栽培されています。中でも、先端がとがった形をした「ファーストトマト」は、愛知県の特産品として根強い人気があります。また、奥三河では、授粉が不要な「あいさか2号(商品名:ルネッサンス)」が栽培されています。



しそ (大葉・赤じそ)

- ①産出額 137億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 1位(72.1%)
- ③作付面積 144ha
- ④主な生産地 豊橋市 豊川市 田原市

しそは、中国原産の一年草で、栽培品種は、青じそ・赤じそに大別されます。青じそは大葉ともいわれます。愛知県では、青じその生産が盛んで、豊橋市などでは50年以上前から栽培されており、愛知県は、全国一の産地となっています。

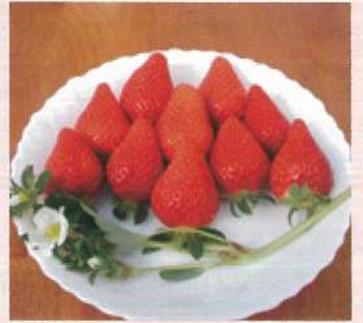


いちご

- ①産出額 92億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 6位(5.2%)
- ③作付面積 265ha
- ④主な生産地
愛西市 豊橋市 西尾市
豊川市 蒲都市 幸田町

愛知県のいちご栽培は、明治時代に始まりました。今では、ビニールハウスなどを利用して、冬から春にかけて、生産・出荷されています。

県内では、2005年に県が育成した「ゆめのか」をはじめ、「章姫(あきひめ)」、「紅ほっぺ」、「とちおとめ」の4品種が主に栽培されています。



ブロッコリー

- ①産出額 38億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 5位(7.8%)
- ③作付面積 940ha
- ④主な生産地
田原市 豊橋市

愛知県のブロッコリー栽培は、東三河地域で盛んに行われ、全国有数の産地となっています。

また、ブロッコリーはカリフラワー同様、キャベツの変種で、小さなつぼみの固まりと茎を食べるため、花野菜とも呼ばれています。



なす

- ①産出額 31億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 7位(3.4%)
- ③作付面積 247ha
- ④主な生産地
豊橋市 岡崎市 幸田町
一宮市

新鮮ななすは、濃い黒紫色で、表面にしわがなく光沢があり、へたの切り口が新しく、鋭いトゲを持っています。「千両なす」という品種が多く作られています。2008年に愛知県が育成した「とげなし輝楽」は授粉が不要かつへたにトゲがない品種で、作付が拡大しています。



ふき

- ①産出額 10億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 1位(37.0%)
- ③作付面積 70ha
- ④主な生産地
東海市 知多市 愛西市
稲沢市

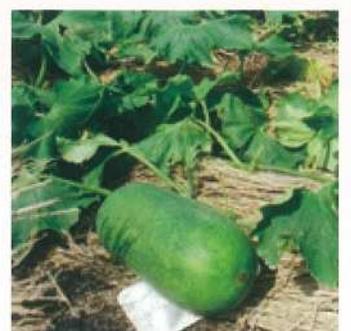
ふきは、日本原産の野菜で、野生種を含めて200種以上あるといわれています。知多半島を中心に明治時代の中頃から「愛知早生ふき」が栽培されており、全国に広まってきました。最近では、愛知県と経済連が共同育成した「愛経2号」もつくられており、愛知県は、全国の産地となっています。



とうがん

- ①産出額 3億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 2位(25.0%)
- ③作付面積 23ha
- ④主な生産地
豊橋市 田原市 碧南市

愛知県では1970年に沖縄から導入された「琉球とうがん」の栽培が増え、現在では全国有数の産地となっています。一方、県内には古くから「早生とうがん」という在来品種があり、2002年度には「あいちの伝統野菜」にも選定されています。

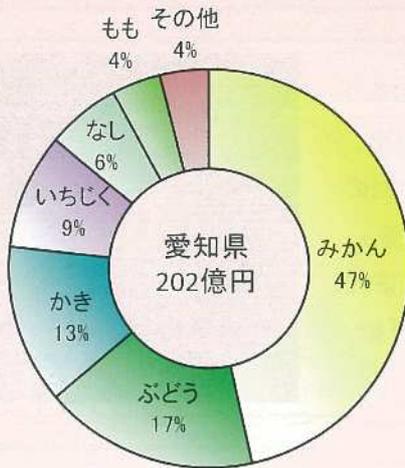


「生産農業所得統計」及び「作物統計調査」(農林水産省)などより。
(データは2018年。ただし、しそ及びとうがんの作付面積は2016年。主な生産地は「愛知県野菜品目別市町村別業務統計(2017年)」より。

5 果樹・茶

愛知県の果樹の産出額は、全国第13位です。品目別では、みかんの割合が47%と最も多くなっていますが、他にもぶどう、かき、いちじく、なしなど様々な果実が栽培されています。

果樹の品目別産出額構成比



果樹の品目別結果樹面積



みかん

- ①産出額 94億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 7位(5.4%)
- ③結果樹面積 1,240ha
- ④主な生産地
蒲郡市 東海市 南知多町
知多市 美浜町

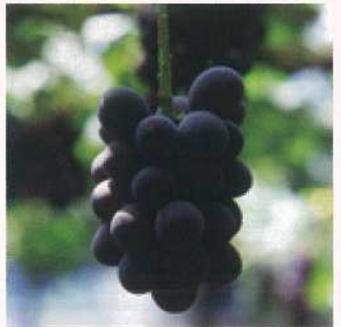
愛知県は、初夏から秋にかけて出まわる、ハウスみかんの全国有数の産地です。この栽培方法は、1969年に、全国に先駆けて愛知県で始まったもので、蒲郡市の「蒲郡温室みかん」、美浜町を中心とした「みはまっこ」などが有名です。また、美浜町では、甘酸っぱい味が特徴の「さわみっこ」も出荷されています。



ぶどう

- ①産出額 35億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 7位(2.4%)
- ③結果樹面積 455ha
- ④主な生産地
大府市 東浦町 東海市
岡崎市 豊橋市

全国的に最も栽培面積の多い「巨峰」の種なし栽培技術を初めて確立したのは愛知県です。愛知県には各地にぶどうの直売所や観光ぶどう狩り園があり、シーズンになると多くのお客さんと賑わいます。



かき

- ①産出額 26億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 5位(6.7%)
- ③結果樹面積 1,110ha
- ④主な生産地
豊橋市 幸田町 犬山市
新城市

かきは、古くから栽培されており、また、ヨーロッパを始め、多くの国で「KAKI」の呼び名で親しまれています。愛知県の主産地は豊橋市で、「次郎柿」という品種が中心となっており、深くコクのある甘みとしっかりした歯ごたえが特徴です。また、幸田町では、形が筆の穂に似ている「筆柿」が特産となっています。



いちじく

- ①産出額 19億円
- ②産出額の全国順位(シェア)
1位(29.2%)
- ③栽培面積 129ha
- ④主な生産地
安城市 刈谷市 碧南市
常滑市 稲沢市 豊川市
豊田市 西尾市

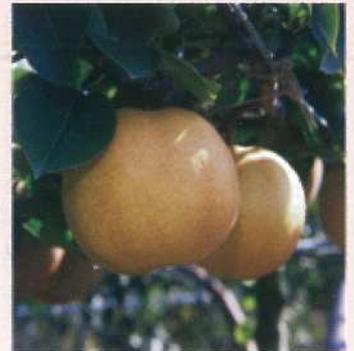
いちじくは、愛知県では明治時代から本格的に栽培され始め、現在では安城市や碧南市を始め県内各地で栽培され、全国一の産地となっています。1985年から低温流通システムが導入され、新鮮でよく熟したおいしいいちじくが食卓へ届けられています。



なし

- ①産出額 12億円
- ②産出額の全国順位(シェア)
18位(1.7%)
- ③結果樹面積 344ha
- ④主な生産地
豊橋市 安城市 豊田市
西尾市 みよし市 幸田町

愛知県のなしの栽培は明治初期に始まったとされています。現在、安城市、豊田市、豊橋市などで栽培され、愛知が誇る果物の一つとなっています。「幸水」を始め、「豊水」、「新高」、ジャンボ梨の愛称で親しまれる「愛宕(あたご)」、愛知県が育成した「歎月」などの品種が栽培されています。



もも

- ①産出額 8億円
- ②産出額の全国順位(シェア)
8位(1.4%)
- ③結果樹面積 —
- ④主な生産地
小牧市 豊田市 春日井市

ももは、中国原産といわれていますが、現在栽培されているももは、明治時代に欧米や中国から入ったものが品種改良されたものです。「白桃」などなじみがある品種は、大正時代から広く栽培され始めました。愛知県では、果肉が柔らかく、みずみずしい「白鳳」が最も多く栽培されており、7月中旬から下旬にかけて出回ります。



ぎんなん

- ①産出額 2億円
- ②産出額の全国順位(シェア)
1位(33.3%)
- ③栽培面積 61ha
- ④主な生産地
稲沢市

ぎんなんは、愛知県の特産品の一つです。稲沢市祖父江町一帯で、古くから、強風を防いだり、火災時の延焼を防ぐ目的で植えられていました。町内には樹齢100年を超える大木があちこちにあり、晩秋ともなると黄金色に染まった美しい風景が広がります。



茶

- ①産出額 15億円
- ②産出額の全国順位(シェア)
8位(2.4%)
- ③栽培面積 521ha
- ④主な生産地
西尾市 新城市 豊田市
豊橋市 田原市

愛知県の茶の栽培は、明治時代から本格的に始まりました。西尾市、豊田市では主に「てん茶(抹茶の原料)」が生産され、新城市、豊橋市、田原市では主に「せん茶(一般に急須で入れて飲むお茶)」が生産されています。愛知県は、京都府、鹿児島県に次いで全国第3位の「てん茶」の産地となっています。

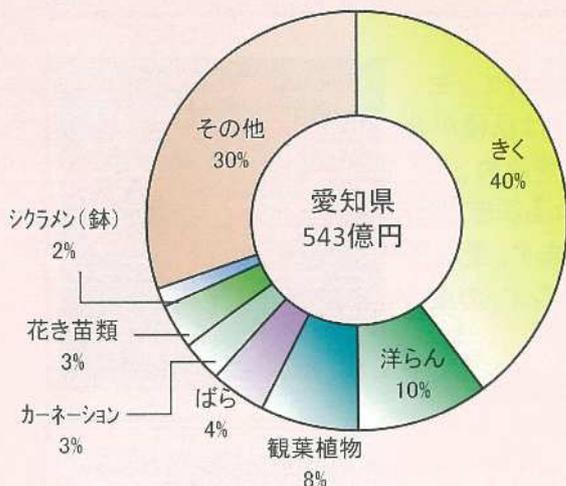


「生産農業所得統計」及び「作物統計調査」(農林水産省)などより。
(データは2018年。ただし、いちじくの栽培面積、ぎんなんの栽培面積は、2017年。主な生産地は県の調査(2017年産)より。ただし、茶の生産地は愛知県茶業連合会会員面積のある市。)

6 花き

愛知県の花きの産出額は543億円で、1962年以降全国一を誇っています。品目別の産出額でも、きく、洋らん、観葉植物、ばらが全国一です。また、愛知県では、多くの花きがガラス温室やビニールハウスなどの施設で栽培されています。

花きの品目別産出額構成比



花きの品目別作付(収穫)面積



きく(切花)

- ①産出額 216億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 1位(35.2%)
- ③作付面積 1,288ha
- ④主な生産地 田原市 豊川市

きくは、太陽の出ている時間が短くなると花を咲かせる性質があります。この性質を利用して、人工的に昼の時間を長くすることで、開花を本来の時期よりも遅らせる電照栽培は、愛知県で開発された技術で、全国に広く普及しています。愛知県のきくの産出額は全国の約3分の1を占め、全国一となっています。



洋らん(鉢物)

- ①産出額 55億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 1位(15.6%)
- ③収穫面積 46ha
- ④主な生産地 豊橋市 西尾市 東海市 南知多町 碧南市 東浦町 豊田市

愛知県で洋らんの栽培が本格化したのは昭和40年代以降で、現在では、全国の産出額の約5分の1を占める全国一の産地となっています。県内では、シンビジウム、ファレノプシス(コチョウラン)、デンドロビウムなど多くの種類が栽培されています。



観葉植物(鉢物)

- ①産出額 41億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 1位(33.6%)
- ③収穫面積 89ha
- ④主な生産地 田原市 西尾市 岡崎市 豊橋市 南知多町 美浜町 安城市

愛知県では、昭和30年代に本格的な栽培が始まり、現在では、全国の産出額の約3分の1を占める全国一の産地となっています。以前は業務用の需要がほとんどで、貸し鉢(レンタル)として使われていました。現在は、家庭用の需要が中心で、小さい鉢物やミニ観葉植物も増えています。



ばら(切花)

- ①産出額 23億円
- ②産出額の全国順位(シェア)
1位(14.0%)
- ③作付面積 49ha
- ④主な生産地
豊川市 田原市 西尾市
豊橋市

愛知県のばら生産は、東三河地域を中心に全国一の産出額を誇っています。多くの品種が育成され、様々な花色や、「スプレー」と呼ばれる一つの枝にたくさんの花を咲かせるものなどが出回っています。贈り物やブライダル用として人気のあるバラですが、特徴のある品種の登場によりいろいろな場面で使われるようになりました。



カーネーション(切花)

- ①産出額 17億円
- ②産出額の全国順位(シェア)
2位(16.5%)
- ③作付面積 47ha
- ④主な生産地
西尾市 田原市 碧南市

毎年5月第2日曜日の母の日に向けて、生産のピークを迎えるカーネーションは品種が非常に多く、赤色や白色の一輪咲きを始め、様々な花色や「スプレー」と呼ばれる咲き方のカーネーションなどが花屋に並びます。愛知県は長野県、北海道に次ぐカーネーションの産地となっています。



花き苗類

- ①産出額 19億円
- ②産出額の全国順位(シェア)
2位(6.3%)
- ③作付面積 100ha
- ④主な生産地
一宮市 春日井市 稲沢市
愛西市 碧南市

花壇用としてガーデニングブームを背景に生産が増え、愛知県は全国有数の産出額を誇っています。一年を通じて、非常に多くの種類が出回ります。店頭で選ぶ際は、葉の付き方が密で、株元がしっかりしているものを選びましょう。



シクラメン(鉢物)

- ①産出額 8億円
- ②産出額の全国順位(シェア)
1位(11.0%)
- ③収穫面積 16ha
- ④主な生産地
豊川市 田原市 設楽町
安城市 稲沢市

シクラメンは、冬の室内を華やかに飾る代表的な花で、愛知県は全国第1位の産出額を誇っています。日によく当て、傷んだ花は早めに摘み取るなど、こまめに手をかけてやれば、桜の咲く頃まで花を楽しむことができます。



「生産農業所得統計」及び「作物統計調査」(農林水産省)などより
(データは2018年。主な生産地は「花き生産実績調査(2017年度)」より。)

★ 花の王国あいち

愛知県は、花き産出額において1962年以降57年連続で日本一を誇る「花の王国あいち」であり、2018年の花き産出額は543億円と、第2位の千葉県の上2倍以上となっています。

愛知県では、県民の皆さんに「花の王国あいち」であることを知っていただくため、2015年度にシンボルマークを作成し、花きの生産・流通・小売等の関係団体と連携しながらPR活動を進めています。

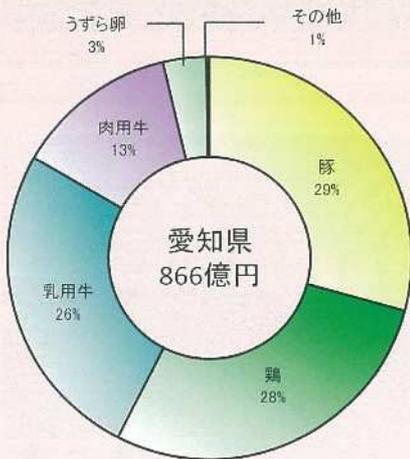
順位	都道府県名	産出額	全国シェア
1	愛知県	543億円	16.3%
2	千葉県	193億円	5.8%
3	福岡県	172億円	5.2%
4	埼玉県	160億円	4.8%
5	静岡県	157億円	4.7%



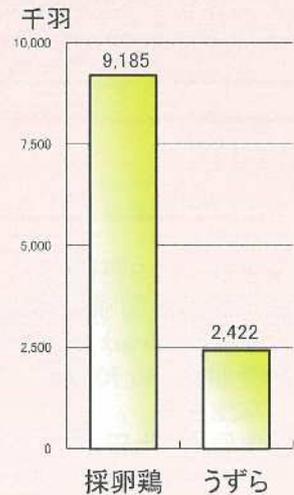
7 畜産

愛知県の畜産の産出額は866億円で、農業全体の約28%を占め、全国でも第11位に位置しています。豚、鶏、乳用牛、及び肉用牛の他、うずら卵は特産品として全国一の生産を誇っています。地域別には、東三河及び知多が主要な産地です。

畜産の品目別産出額構成比



畜産の品目別飼養頭羽数



豚

- ①産出額 253億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 9位(4.1%)
- ③飼養頭数 352,700頭
- ④主な生産地
田原市 豊橋市 西尾市
美浜町 南知多町 豊川市

愛知県では、おいしくて品質の良い豚肉を消費者へ提供できるよう、発育が良く肉質に優れている優秀な親豚を開発し、畜産総合センターから生産者に供給しています。

この親豚は『愛とん』と呼ばれ親しまれており、『愛とん』から生まれた子豚は、みかわポークなどのブランド豚として高い評価を得ています。



鶏

- ①産出額 245億円
(うち鶏卵 204億円)
- ②産出額の全国順位(シェア) 11位(2.7%)
(鶏卵 6位(4.2%))
- ③飼養羽数(採卵鶏) 9,185千羽
- ④主な生産地(鶏卵)
新城市 田原市 常滑市
半田市 豊橋市 岡崎市

愛知の養鶏は、江戸時代末期、尾張藩士が副業として始めたサムライ養鶏が起源と言われています。その後、明治末期から大正にかけ飛躍的に発展し長年にわたって、養鶏王国愛知と呼ばれています。

卵はコレステロール摂り過ぎ防止のため、1日1個と言われていましたが、近年、このことは誤りで、2個以上食べても全く影響がないことがわかりました。また、免疫力アップなど卵の食品としての機能が注目されています。



乳用牛

- ①産出額 223億円
(うち生乳 189億円)
- ②産出額の全国順位(シェア)
7位(2.4%)
(生乳 7位(2.5%))
- ③飼養頭数 23,000頭
- ④主な生産地
田原市 半田市 豊橋市
西尾市 豊田市 武豊町

愛知県の生乳生産量は、年間約16万7千トンで、渥美半島と知多半島を中心に生産されています。愛知県で生産された生乳の多くは、新鮮なうちに県内の消費者に届けられており、学校の給食で提供される牛乳は全て愛知県産が使われています。

酪農は、毎日搾乳しなければならないため、生産者の負担は大きく大変ですが、最近では、搾乳ロボットやIT技術の導入などにより省力化を進めています。

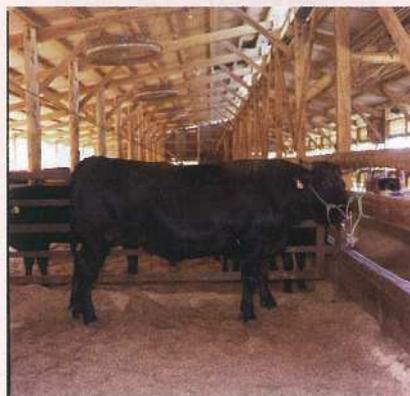


肉用牛

- ①産出額 113億円
- ②産出額の全国順位(シェア)
19位(1.5%)
- ③飼養頭数 40,700頭
- ④主な生産地
田原市 半田市 豊橋市
東浦町 新城市 武豊町

愛知県では、いろいろな地域で牛肉のブランド化に取り組まれており、愛知県を代表する黒毛和牛の「みかわ牛」を始め、交雑種(黒毛和種×ホルスタイン種)の「あいち牛」や「知多牛」などがあります。

農協直営のレストランや生産者が運営する農家レストランも増えてきており、ブランド牛肉が地域の観光資源となっています。



うずら卵

- ①産出額 30億円
- ②産出額の全国順位(シェア)
1位(63.8%)
- ③飼養羽数 2,422千羽
- ④主な生産地
豊橋市 豊川市 阿久比町
常滑市 田原市

うずらは、日本で家きん化された唯一の動物種で、古くは鳴き声を楽しむために愛玩用として飼われていました。

明治中期頃から採卵用として飼育され始め、1941年には全国で200万羽(愛知県160万羽)まで増えました。

しかしながら、戦争による餌不足でうずらの数は激減し絶滅の危機に瀕しました。戦後、豊橋市の生産者が、東京で飼育されていたうずらを基に数を増やし、豊橋市のうずら産業を復興させました。



名古屋コーチン

- ①産出額 17億円
- ②産出額の全国順位
1位
- ③飼養羽数 296千羽
- ④主な生産地
豊橋市 田原市 東栄町
武豊町 西尾市 豊田市

名古屋コーチンは、元尾張藩の藩士が、明治の半ば、在来の地鶏と中国のバフコーチンを交配し作出しました。

卵を多く産み肉質も良いと全国で評判になり、養鶏の代名詞となりました。

昭和の半ば、一時激減しましたが、消費者のグルメ嗜好の高まりとともに、その美味しさが見直され、年間100万羽が出荷されるまでに復活しました。

3月10日の名古屋コーチンの日には、もっと多くの人に魅力を伝えるためのPRやイベントを行っています。



8 農業・農村の多面的機能

日本の農業・農村は、「食」を支えているだけでなく、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など様々な働きを持っています。

このような様々な働きを「農業・農村の多面的機能」といいます。この「農業・農村の多面的機能」は、私たちすべての大切な財産であり、これを維持・発揮させるためにも、農業を継続することが大変重要です。

愛知県における農業の多面的機能の評価額(2000年)

項目	評価額(億円/年)
保健休養・安らぎの場の提供	1,373
洪水の防止	754
水資源のかん養	109
土壌浸食の防止	59
有機物の還元	7
気候の緩和	4
合計	2,306

愛知県の農業の多面的機能の評価額を試算すると、年間2,306億円となります。

※日本学術会議の答申を基に試算。項目については、一部わかりやすい表記としました。
※多面的機能にはこのほかに、伝統文化の継承など貨幣換算できない機能があります。

● 水源をかん養し、土砂の流出を防ぎます

水田は「自然のダム」ともいわれています。雨水を徐々に下流に流すことによって、地下水をかん養し、洪水を防いだり、土砂の流出を防止したりしています。また、水田や畑には、有機物を植物が吸収できるように分解する機能や、気候を緩和する機能などもあります。



● 多様な生物が生息・生育する場を提供しています

農地や農業用のため池・水路は、多様な動植物が生息・生育する豊かな生態系をはぐくむ自然空間を形成・維持しています。自然と調和した農業を継続することは、地域固有の歴史がはぐくんできた「生物の多様性」の保全に役立ちます。



● 伝統文化を継承しています

豊作を祈り、祝うお祭りなどの伝統行事や伝統芸能は、農業や農村の生活から生まれました。また、そうしたときに食べていたごちそうは、郷土料理として今に受け継がれています。農業・農村は、地域の気候や風土に根ざしたこれらの地域文化の伝承に大きな関わりを持っています。



● うるおいと安らぎ、学習の場を提供します

農業は、自然とのふれあいの場や安らぎの場を提供します。心なごむ農村の景観は、農業を営むことで保たれています。また、農作業体験など、こどもたちの自然やいのちにふれる学習の場として、活用されています。



【矢作川水系】

○矢作川総合用水(北部)

- ・主な受益地域 豊田加茂
- ・受益面積 682ha
- ・取水開始 1979年
- ・水源 矢作ダム

○枝下用水

- ・主な受益地域 豊田加茂
- ・受益面積 1,580ha
- ・取水開始 1884年
- ・水源 矢作川自流(矢作ダム)

○明治用水

- ・主な受益地域 西三河
- ・受益面積 4,759ha
- ・取水開始 1880年
- ・水源 矢作川自流(矢作ダム)

○矢作川総合用水(南部)

- ・主な受益地域 西三河
- ・受益面積 1,054ha
- ・取水開始 1985年
- ・水源 矢作ダム



明治用水頭首工



矢作川用水の受益地

【矢作川水系】

○矢作川用水

- ・主な受益地域 西三河
- ・受益面積 6,019ha
- ・取水開始 1963年
- ・水源 羽布ダム



羽布ダム



大島ダム



豊川用水の受益地



牟呂松原頭首工

【豊川水系】

○豊川用水

- ・主な受益地域 東三河
- ・受益面積 15,350ha
- ・取水開始 1968年
- ・水源 宇連ダム・大島ダム

○松原用水

- ・主な受益地域 東三河
- ・受益面積 641ha
- ・取水開始 1567年
- ・水源 豊川自流

○牟呂用水

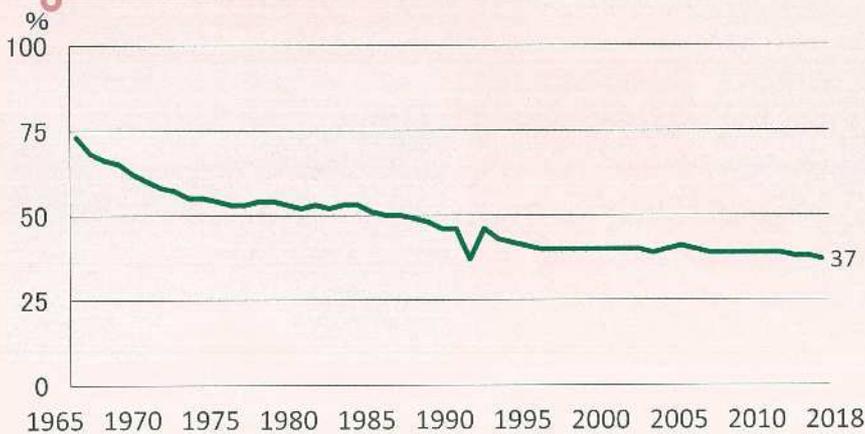
- ・主な受益地域 東三河
- ・受益面積 970ha
- ・取水開始 1888年
- ・水源 豊川自流

10 食料自給率

食料自給率とは、国内の食料消費について国内産でどの程度まかなえるかを示す指標です。日本の食料自給率(カロリーベース)は37%で、約6割の食料を輸入に依存しています。世界的には、新興国の人口増加や食生活の改善などにより、世界の食料需給はひっ迫基調で推移すると予測されています。また、異常気象による主要生産国における減産、農産物価格の急激な高騰、輸出規制による貿易量の減少などの事態も想定されることから、食料自給率を向上させるための取組が必要となっています。

● 日本の食料自給率

日本の食料自給率の推移



日本の食料自給率(カロリーベース)は、1965年度の73%から長期的に低下傾向にあります。2000年度以降は、40%前後で推移しており、2018年度は、前年度から1ポイント減少し、37%となりました。

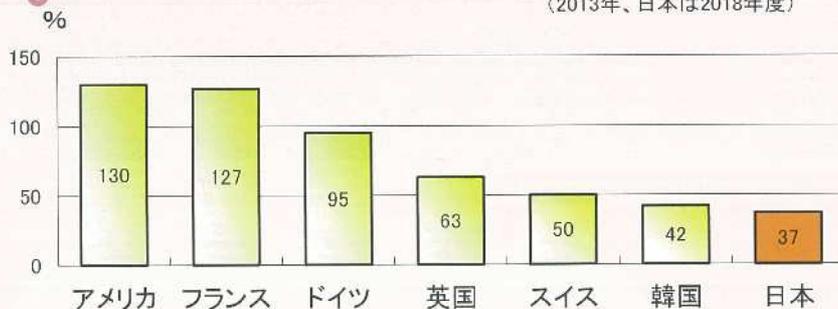
この数値を他の先進国と比較すると、日本は最低水準となっています。

食料自給率が低下した主な要因は、米の消費量の減少に加え、輸入飼料穀物や輸入油糧作物に依存する傾向が高い畜産物や油脂の消費量の増加があります。

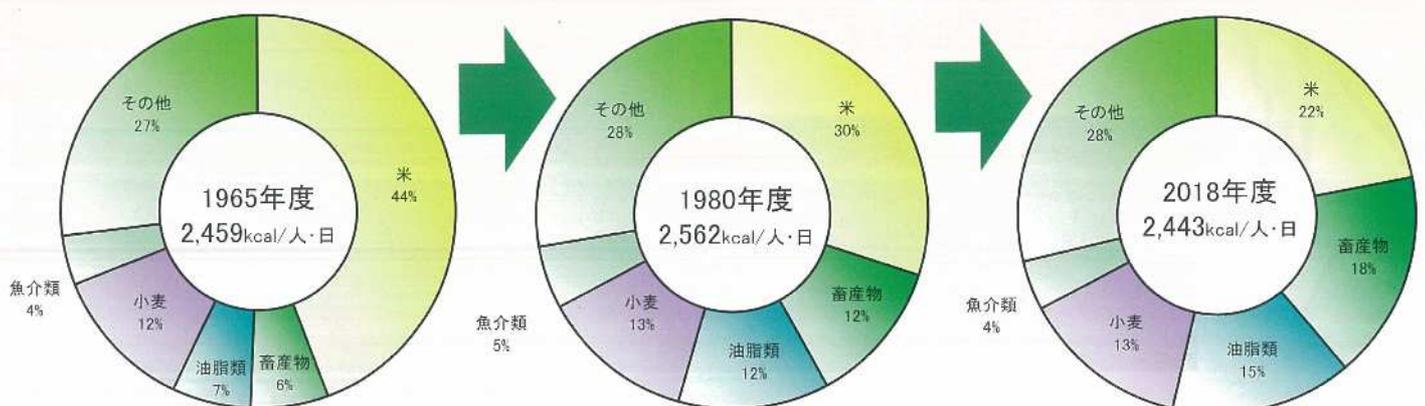
この結果、米を中心として魚介類、畜産物、野菜、果実などの様々な食品を組み合わせる日本型食生活が失われ、栄養バランスの崩れがみられます。

各国の食料自給率

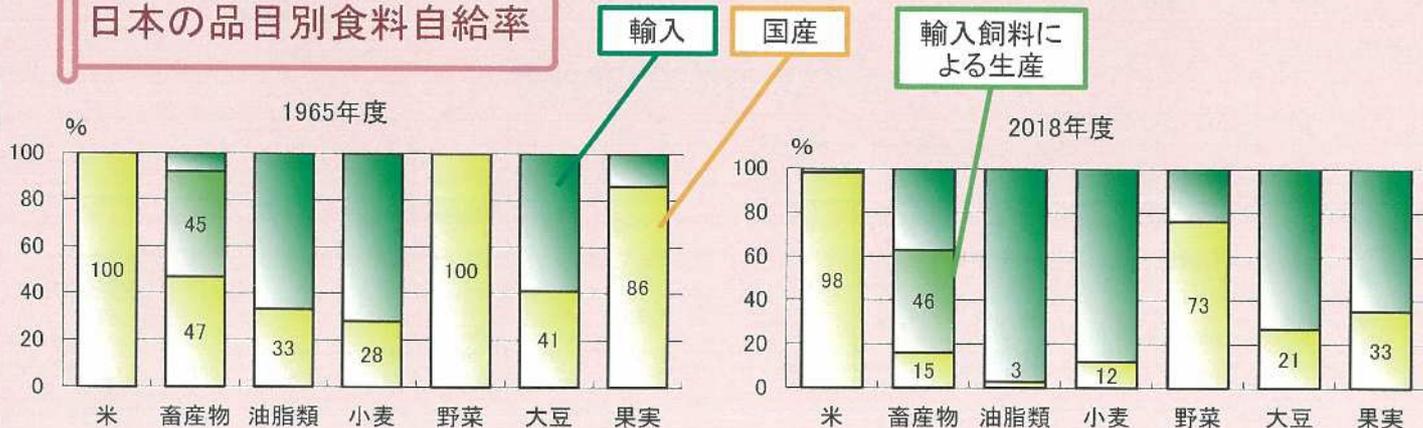
(2013年、日本は2018年度)



食生活の変化(供給カロリーの割合の推移)



日本の品目別食料自給率



食料自給率はカロリーベース。「平成30年度食料自給率について」(農林水産省)より

● 愛知県の食料自給率

都道府県別の食料自給率(2017年度カロリーベース)では、愛知県は全国第42位の12%となっています。愛知県は農業産出額全国第8位の農業県ですが、人口が約754万人(2018年)と多く、耕地1ha当たりの人口が全国第4位の101人(全国平均の約3倍)となっていること、また、カロリーが低い野菜や自給率計算に反映されない花きなどの園芸作物の生産が盛んであることから、カロリーベースの食料自給率は低くなっています。

都道府県別食料自給率

2017年度

順位	都道府県	自給率 (%)
1	北海道	206
2	秋田	188
3	山形	137
4	青森	117
5	新潟	103
...
41	奈良	14
42	愛知	12
43	京都	12
44	埼玉	10
45	神奈川	2
46	東京	1
47	大阪	1

耕地1ha当たり人口

2018年

順位	都道府県	耕地当たり人口(人/ha)
1	東京都	2,036
2	大阪府	689
3	神奈川県	480
4	愛知県	101
5	埼玉県	98
6	京都府	86
7	兵庫県	74
...
43	山形県	9
44	青森県	8
45	岩手県	8
46	秋田県	7
47	北海道	5

「食料需給表」(農林水産省)などより

★ いいともあいち運動

「いいともあいち運動」は、愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えていこうという「運動」です。

また、県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと食べていただきたい(利用していただきたい)という、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

2018年度に運動開始から20周年を迎え、この運動に賛同する生産者団体、流通関係者、消費者団体等のネットワーク会員数も1,600を超えるなど、取組の輪が広がっています。



11 参考資料

愛知県農業の主要指標(2018年)

区 分	単 位	愛 知 県			全 国		資 料	備 考		
		2013年	2018年	2018年/2013年	2018年	2018年/2013年				
農家戸数	戸	81,028	73,833	87.9	2,155,082	85.3	※出典資料の作成年次の関係で、データの詳細は以下のとおり。 2018年値 ⇒2015農林業センサス 2015年2月 2013年値 ⇒2010農林業センサス 2010年2月	農家戸数 総世帯数		
農家率	%	2.9	2.4	-	4.0	-				
販売農家	戸	43,599	35,068	80.4	1,329,591	81.5				
専業農家	戸	10,024	11,105	110.8	442,805	98.1				
専業農家率	%	23.0	31.7	-	33.3	-				
主業農家	戸	10,128	8,754	86.4	293,928	81.7				
主業農家率	%	23.2	25.0	-	22.1	-				
農業就業人口	人	77,359	63,736	82.4	2,096,662	80.5				
女性の割合	%	51.5	51.4	-	48.1	-				
うち65歳以上	人	45,643	39,290	86.1	1,330,675	82.9				
65歳以上の割合	%	59.0	61.6	-	63.5	-				
基幹的農業従事者	人	66,861	55,332	82.8	1,753,764	85.5				
耕地面積	ha	77,900	74,900	96.1	4,420,000	97.2			耕地面積調査 2018年7月	耕地面積 総面積 (総面積は 28年10月)
耕地面積率	%	15.1	14.5	-	11.9	-				
1戸当たり 平均耕地面積	ha	0.93	1.01	109.4	2.05	114.0				
水田面積	ha	44,100	42,500	96.4	2,405,000	97.4				
畑面積	ha	33,800	32,400	95.9	2,014,000	96.8				
水田率	%	56.6	56.7	-	54.4	-				
農業振興地域面積	ha	184,150	183,205	99.5	-	-	農業振興課資料 2018年			
農振地域内 農用地区域面積	ha	69,075	67,504	97.7	4,680,000	98.3				
農業産出額	億円	3,084	3,115	101.0	90,558	106.2	生産農業所得統計 2018年	野菜・果実、花き		
構成比 米	%	10.1	9.5	-	19.2	-				
構成比 園芸	%	59.9	60.0	-	38.3	-				
構成比 畜産	%	26.4	27.8	-	35.7	-	作付面積調査 2018年	花き・花木・種苗等 作付延べ面積 耕地面積		
農作物作付延べ面積	ha	71,400	67,800	95.0	4,048,000	96.8				
稲	ha	30,300	27,600	91.1	1,470,000	93.0				
野菜	ha	17,600	-	-	-	-				
果樹	ha	5,040	-	-	-	-				
花き等	ha	4,640	-	-	-	-				
耕地利用率	%	91.7	90.5	-	91.6	-				
施設園芸栽培延面積	ha	4,071	3,867	95.0	-	-			園芸農産課資料 2013年値⇒2012年値	ガラス室・ハウス類 等
乳用牛飼養頭数	頭	28,600	23,000	80.4	1,332,000	95.5	畜産統計調査 2019年2月	採卵用成鶏めす		
肉用牛飼養頭数	頭	46,700	40,700	87.2	2,503,000	97.5				
豚 飼養頭数	頭	349,900	352,700	100.8	9,156,000	96.0				
採卵鶏飼養羽数	千羽	6,964	7,019	100.8	141,792	106.2				

○数値の出典及び年次は資料欄に記載した。

主要農産物の生産状況(2018年)

品目	作付面積・飼養頭羽数			生産量・出荷量			品目	作付面積・飼養頭羽数			生産量・出荷量		
	ha	%	順位	t	%	順位		ha	%	順位	t	%	順位
米	27,600	1.9	20	137,700	1.8	20	なし	344	3.0	12	4,920	2.1	13
大豆	4,440	3.0	12	2,750	1.3	16	ぎんなん(※)	61	8.9	2	294	29.7	1
小麦	5,390	2.6	7	22,800	3.0	5	茶	521	1.3	11	863	1.0	10
キャベツ	5,340	15.4	1	245,600	16.7	2	きく(※)	1,293	27.2	1	464,200千本	30.9	1
トマト	507	4.3	5	46,900	6.5	3	洋らん(※)	47	24.9	1	3,540千鉢	24.1	1
しそ(※)	144	27.7	1	3,685	43.0	1	観葉植物(※)	90	29.7	1	21,700千鉢	50.2	1
いちご	265	5.1	6	9,670	6.0	6	ばら(※)	49	14.6	1	45,600千本	18.4	1
きゅうり	156	1.5	24	13,000	2.4	14	花き苗類(※)	102	7.3	3	43,500千本	7.1	3
ブロッコリー	940	6.1	5	13,900	9.0	3	カーネーション(※)	48	16.2	2	41,800千本	17.4	2
なす	247	2.8	13	11,900	4.0	7	シクラメン(鉢)(※)	17	9.3	2	1,510千鉢	9.3	2
ふき	70	13.0	2	4,000	39.2	1	豚	352,700	3.9	9	—	—	—
とうがん(※)	23	10.0	3	2,173	19.9	2	鶏卵	9,185千羽	5.0	6	108,133	4.1	6
みかん	1,240	3.1	8	29,400	3.8	7	乳用牛	23,000	1.7	8	167,427	2.3	8
ぶどう	455	2.7	7	4,040	2.3	9	肉用牛	40,700	1.6	17	—	—	—
かき	1,110	5.8	5	13,500	6.5	5	うずら卵	2,422	—	1	—	—	—
いちじく(※)	129	13.3	1	2,623	19.0	1	名古屋コーチン	296千羽	—	—	719千羽	—	—

※「しそ」、「とうがん」、「いちじく」、「ぎんなん」については2016年。
 ※「きく」、「洋らん」、「観葉植物」、「ばら」、「花き苗類」、「カーネーション」、「シクラメン(鉢)」については2017年。
 ※「みかん」、「ぶどう」、「かき」、「なし」については結果樹面積。

用語の解説

- ・農業産出額 年内に生産された各農産物の生産量(自家消費を含む)から、種子・飼料などの中間生産物を控除した各農産物数量に、農家の庭先価格を乗じ、都道府県を単位として推計したものの。
- ・農家 経営耕地面積が10a以上の農業を営む世帯又は調査期日前1年間における農産物販売金額が15万円以上あった世帯。
- ・専業農家 世帯員のうちに兼業従事者が1人もいない農家。兼業従事者とは、農業以外の仕事の従事日数が30日以上など一定の基準以上、農業以外の仕事に従事したもののことです。
- ・兼業農家 世帯員のうちに兼業従事者が1人以上いる農家。
- ・第1種兼業農家 農業所得を主とする兼業農家。
- ・第2種兼業農家 農業所得を従とする兼業農家。
- ・販売農家 経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家。
- ・自給的農家 経営耕地面積が30a未満かつ調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家。
- ・主業農家 農業所得が主(農家所得の50%以上が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる農家。
- ・農業就業人口 農業従事者のうち、調査期日前1年間に自営農業のみに従事した者、農業とそれ以外の仕事の両方に従事した者のうち自営農業が主の者の人口。
- ・基幹的農業従事者 農業就業人口のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者。
- ・認定農業者 農業経営基盤強化促進法に基づき、プロの農業者を目指して、5年後の農業経営の目標を樹立した農業経営改善計画が市町村によって認定された農業者。地域の中心的担い手として期待されています。
- ・米の生産調整 米の生産過剰が恒常的となった1969年から国の政策として始まり、昭和46年から本格的に実施されています。生産調整の規模は、米の消費量の減少に伴って年々拡大し、愛知県では水田の約4割で生産調整が行われています。
- ・搾乳ロボット 自動制御機械により、個々の牛が識別され、搾乳作業を自動的に行うロボットのことで、搾乳に係わる作業が大幅に省力化されるため、普及が期待されています。
- ・哺乳ロボット 個体識別票を付けた子牛がドリンクステーションに入ると、これを認識して、その子牛に応じた量のミルクを作り、給与する自動哺乳装置のことで、
- ・都道府県別食料自給率 農林水産省が算出した各都道府県の人口と食料生産のバランスを示す指標。住民1人当たりが消費する食料を一定とし、生産された農産物等がすべてその都道府県内に消費されると仮定しています。

よくわかるあいちの農業 2020

2020年3月発行

愛知県農業水産局農政部農政課

〒460-8501

名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 (052)954-6391

FAX (052) 954-6928

URL <https://www.pref.aichi.jp/nousei/>

E-mail nousei@pref.aichi.jp